

感謝を納める

福井大学教育学部附属義務教育学校 8年 小俣 昂子

私が今住んでいる家に住む前は大きな道がすぐ目の前に見える家を借りて住んでいた。冬に雪が降ると、除雪車が雪を遠くへ運んでしまい、しょっちゅう朝からご機嫌斜めモードに。雪が大好きだった私にとって、絶好のおもちゃを持って行ってしまう除雪車は、悪者だったのだ。だからこそ、この家に住んで初めて除雪車のいない冬を体験したとき、本当に心躍った。ふかふかで真っ白い雪があたり一面に広がっている銀世界。当時六歳の私にとってそれは最高の景色だった。ところが無邪気に笑う私とは裏腹にどんより曇り顔の大人が二名。私の両親。ここ福井の雪は水分が多いのでスコップでかき分けようとするはずしりと腰におもさがかかる。ここに越してきたばかりの我が家には雪かきの救世主、ママさんダンプもないので、一向にやまない雪を永遠にスコップで運び出す冬休み。案の定腰痛と共に春を迎えていた。

次の冬、前回の反省を生かし雪かきグッズを取り揃えて挑んだ両親の前に立ち上がったのは去年とは比べ物にならない大雪だった。絶望に包まれる我が家。そんな時に現れた救世主こそあの除雪車だった。毎朝私たちが寝ている間に忌まわしい雪を遠くへ連れ去ってくれる、紛れもないスーパーヒーローだった。残った雪をみんなでどけて、雪かきはびっくりするほどスムーズに進んでいった。

「ありがたいね。これも税金のおかげだよ。」そう笑う両親の顔は十四歳の今でもよく覚えている。

立場が変われば視点も変わる。雪を連れ去る除雪車が、私たちが雪から守ってくれていたように、車道をふさぐ道路工事は私たちがより安全に交通機関を利用するためのもの。大きな音を立てる電線工事だってより快適に電気を送り届けてもらえるようにするためのものなのだ。それらがないと私たちはどれほど困るだろう。私のように、目の前からなくなって初めてありがたみに気づくのでは遅い。

また、何より忘れてはいけないのが、それらの恩恵が人の活躍によるものだという事だ。朝早くに起きて雪を掻きだしてくださる人。暑い中外で工事をしてくださる人。市を、県を運営してくださる人。彼らのおかげで今日の私たちの生活が豊かで安心安全なものになっている。間違いなく彼らは私たちのスーパーヒーローなのだ。そんなヒーローの活動資金。それこそが税金。大切な、税金。

地域のため、市のため、県のため。国のためにだってあなたの税金は使われている。そういう言葉をたくさん聞く。けれどそれを支えるヒーローがいること、そっちのほうが何百倍も大事な事実。税金はそれができない私たちの、せめてもの協力なのだ。けして感謝を忘れてはいけないと、そう思う。